

アットウシ（伝統的な衣類）

アットウシとは、腰の周りで結び固定する衣服です。アットウシには多く装飾が施されたものと、そうでないものがあります。しかし、いずれのものも重要な儀式の際に着用する伝統的な衣服として敬意をもって大切に扱われます。

アットウシという言葉は、主な材料である生地由来しており、その生地はオヒョウやシナノキ、ハルニレの内部樹皮を浸し、柔らかくしなやかにして作られます。そうして出来上がった繊維は丈夫な生地に織られます。アットウシに配されている幾何学模様は綿布（日本最大の島である本州との貿易で手に入れたもの）を染めた物を縫い付けています。ここに展示されているカギカッコ柄のモチーフの様に、決まった型に多種多様なパターンのバリエーションがあります。デザインには精神的な意味も込められていて、悪霊が侵入してくるとされる袖や裾などの開口部にそのデザインが集中しています。